

留学生、冬の上ノ国を満喫



2月8日、北海道でのホームステイを希望している外国人留学生を対象として、スキー体験や特産品バーベキューなどが味わえるツアーが実施されました。これは、本町の交流人口拡大を目的として、上ノ国町観光振興公社が旅行会社と協力して企画したものです。

参加した留学生37名の国籍は、中国や韓国のほか、タイ、フィリピン、アメリカ、フランス、スウェーデンなど13カ国にわたり、しかもそのほとんどが冬の北海道に初めて来たとのこと。午前中に行われたスキー体験では、上ノ国町スキー連盟の講師から指導を受け、午後からはほぼ全員が滑れるほどに上達したほか、本町の特産品バーベキューや温泉など体験した学生からは「上ノ国町でホームステイしたい」との言葉もあり、今後海外にも目を向け、交流人口拡大を目指す上で、貴重なテストケースになった模様です。

ひやまの食と観光、知名度アップ



2月17日から18日にかけて、ひやまの観光や特産品をPRする「食・観光フェア」が東京都大田区で開催され、檜山管内7町が連携して物産販売などを行いました。

昨年引き続き、会場となったJR蒲田駅前の東急プラザでは、1階の広場と7階フロアで特産品などが販売され、本町からは「アワビの酒蒸し」や「焼きツブ」といった調理販売のほか、「煮ダコ」「根ほつけ」「こうれん」など、海の幸と山の幸を豊富に取り揃えたラインナップを販売しました。

3年目となるこの取組ですが、今年はリピーターの方々が多く来店し、「去年も来たよ」と声をかけられることも増えました。

徐々にひやまの知名度がアップしていることについて、関係者にお話を伺うと「檜山を知ってるよ!」と言ってもらえると嬉しい」と話し、これまでの取組の成果を感じるとともに、今後も檜山の知名度アップに意欲を燃やしていました。

めくれない世界の子どもたちへ



1月から3月にかけて、上ノ国高校では、ユネスコ世界寺子屋運動に参加し、書き損じハガキ回収等を通じた発展途上国支援活動を行っています。

日本のハガキは、11枚でカンボジアの子ども1人が1ヵ月間学校に通うことができる価値があることから、必要無くなった資源の再利用の観点からも非常に有意義な活動となっています。

昨年は、3月初旬までで1930枚のハガキが集まり、今年は書き損じハガキに加え、未使用切手、未使用プリペイドカード、図書券なども合わせて回収し、世界のより多くの子供達が学校に通えるよう、活動を継続しているとのこと。

上ノ国高校では、3月12日までこれら寄附の受付を行う予定で、高校はもちろん、小林商店、トライマート、ローソン、セイコーマート、道南うみ街信用金庫などには回収ボックスを設置していますので、ぜひご協力をお願いします。

園児たち、冬道の危険学が



2月13日、冬道特有の危険性を園児たちに伝えようと、交通安全教室が上ノ国保育所にて行われました。

この教室は、園児の父母らで構成される「こぐまクラブ」が、信号の見方や左右確認の大切さを紙芝居で伝え、マットロールを視界を遮る雪山に見立てた横断歩道の渡り方講習を行いました。

また同席した石崎駐在所の古平巡査部長は、「皆さんの横断歩道の渡り方は100点満点です」と園児たちを褒めると同時に、「道路に向かってソリなどで滑らないこと」と、軒下などを歩かないことを約束するようお願いしていました。

古平巡査部長になぜ約束したかを聞かれた園児からは「急に止まれない!」「つらが落ちてくるから!」と間髪入れずに元気な返事をしていたことから、冬道が危険なことを十分に学ぶことが出来た様子です。